

過去・現在・未来が混在するタイムサービス

飯田浩史† 岡崎博樹‡ 上林憲行†
東京工科大学† 手仕事工房‡

1. はじめに

現代では生活が便利になった反面、スケジュールという名の時間制約にふりまわされ時間に縛られている^[1]。それを加速するようなカレンダーや Todo アプリが主流である。本研究ではそれとはまったく違った切り口を検討し、様々な出来事に対して予定を待つ喜びや思い出から懐かしさを抱いてもらえるようにしていきたいと考えた。またサービスを提供する端末としてスマートフォンに着目し、iPhone アプリとして構築をおこなうこととした。

2. サービスデザイン

2.1 サービスの方向性

サービスを構築するに当たり iPhone 上での時間に関するアプリの調査を行った。その結果、Todo, Calendar, Timer, Count, Alarm, Clock アプリなど時間に関するものは総勢 10160 以上あった。これらのアプリをふまえて代表的なものを次の図 1 に示す。



図 1 目指すサービス領域

横軸左側が単一時制（過去なら過去，未来なら未来のようにどちらか一方だけ），右側が複数時制（過去・現在・未来を相互に行き来できる）。縦軸は提供価値であり，上側が時間を楽しむ（つつい遊んでしまったり見たくなくなってしまふもの），下側が時間を管理する（あと 5 分で会議が始まってしまうから急がなくては）という図に

“Time Management Service enjoying unique time space with past, present and future.” Hiroshi Iida†, Hiroki Okazaki‡, Noriyuki Kamibayashi†
†School of Media Science, Tokyo University of Technology ‡Teshigoto Kobo

なっている。この図から複数時制とし時間を楽しむ要素を持ったサービスは存在していないことがわかり、この領域を目指して構築していくこととした。

2.2 サービスの特徴

美人時計^[2]は時間を楽しむ要素を持ったサービスで、1分毎にかわるがわる新しい女性が表示されるというものだ。実際、使用するとわかるがつついつい時間を忘れて見てしまう。このような時間を楽しむ要素を加えていきたいと考えた。

また、複数時制にすることによりユーザーは今まで別々のサービスで管理していたものをひとつで済むようになる。さらに過去や未来が混在することにより、何か意外なことが発見できるのではないかと考える。（例：ワールドカップ開幕まであと何日、彼と付き合い始めて何年たった）そして、未来の予定が現在、過去のこと、となり時をまたぐことで時の流れを感じるができる。

特徴をまとめると、過去・現在・未来の複数時制にすること、それを表現する方法として今までのような機能重視のロジカルなリスト型ユーザーインターフェース（以下から UI）と楽しむ UI を組み合わせることとした。これにより使い勝手を損なうことなく、時間に縛られずに喜びや懐かしさを感じてもらえるのではないかと考える。

2.3 タイムサービスインターフェース

楽しむ UI の案として 4 つをあげた。（図 2）

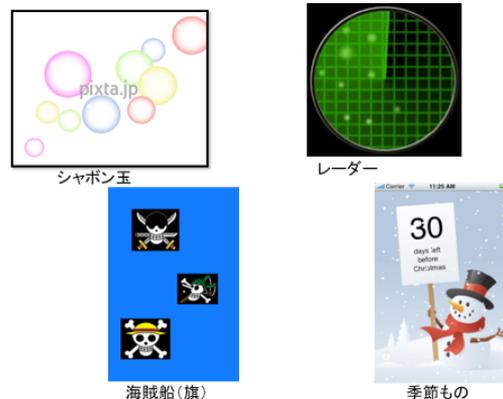


図 2 楽しむインターフェース

比較した結果、多くの要素を表現することが出来、比較的作成しやすいシャボン玉を今回は選ぶことにした。ユーザーが自由に変更できるよう、随時他の案も作成していく予定である。

3. サービスの機能と実現

3.1 機能

機能面としては以下の機能を実装する。

カウントダウン・アップ

(イベント・誕生日・休日) まで・からカウントダウン・カウントアップを行う。

タイムスライド

カウントアップが終了したらその予定は消去するのではなく履歴が残り、後で確認することが可能にする。未来の予定が現在を通過し過去の出来ごととなる。

自動設定

時刻を設定しなかったカウントをしない。設定するときは初期値として現在時間を標示するようにする。

他サービスとの連携

Google カレンダーを表示する。

これらは筆者が構築するサービスの最低限必要な機能と考えているものであり、今後発展していく可能性は残してある。まずはこの機能を構築することとした。

3.2 サービスの実装

このサービスでは予定保存に Mac OS X 用開発フレームワーク Core Data という技術を使っている。この Core Data に保存しているデータは時間処理をする工程を経て複数の UI に表示するようにしている。



図4 サービスプロトタイプ

3.3 バブル型 UI の詳細

リスト型 UI (一覧表示の画面) で+ (予定追加) ボタンを押し、詳細設定画面に移動する。そこでタイトル・メモ・日付・タスクなどを設定する。そこで設定した項目はリスト型 UI とバブル型 UI (シャボン玉表示の画面) の両方に、3日後にオリンピック開催や、コンタクトを変えて

から2週間経過, のように表示されるようになる。



図3 バブル型 UI の詳細

バブル型 UI では、シャボン玉の中心にカウントダウン・アップを表示するだけでなく、シャボン玉の大きさで項目の現在の時間的な近さ、色でタスクを表しており、またそれぞれが個別の動きをしている。また、シャボン玉をクリックして詳細情報を見ることができ、バブル型 UI から新たな項目を追加することもできる。この2つ以外にも Google カレンダーを表示し、編集することもできる。

4. おわりに

本研究ではサービスの提案、プロトタイプ of 構築までを行った。このプロトタイプの完成において、2つの UI を持つことで機能性と直観性を両立し、一定の成果をあげることが出来たと考える。また今後はユーザーが複数の UI を切り替えられるようにすること、時間の基準点をずらすことができるようにすることを課題として取り組んでいきたいと考えている。

参考文献

- [1] ミハイル・エンゲ (著) 大島かおり (翻訳) モモ__時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にかえしてくれた女の子のふしぎな物語 出版社: 岩波書店 発行: (1976)
- [2] 美人時計 <http://www.bijint.com/>
- [3] Dave Mark (著) Jeff Lamarche (著) More iPhone 3 Development 出版社: Apress; New 版 (2009/12/30) 発行: (2009)
- [4] Prideco <http://www.prideco.jp/web-design-image/ja/024.html>